

令和4年度 第1回緑高運営協議会 議事録

1 日 時 令和4年5月31日（木）15:40～16:50

2 会 場 本校 会議室

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会総務担当	
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	欠席
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	欠席
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	
若林 由美	後援三徳会（本校保護者後援会）前理事長	

4 内 容

- (1) 校長あいさつ
- (2) 学校運営協議会委員委嘱
- (3) 学校運営協議会委員・学校職員紹介
会長及び副会長の互選
- ・会長→重田 諭吉 様
- ・副会長→若林 由美 様
- (4) 学校評価部会・特色部会
- (5) 令和4年度の学校運営について（協議）

○（事業G・学事G）SSH、授業力向上、対話的な学習等の説明

・生徒がどれくらい自分を理解したかわかるようになっているか。また、アンケートの集計などのシステムはきちんと整備されているか。

⇒学習を通じて自分がどのように取り組み、どれだけ達成することができたかを記述できるようなアンケートを考えている。クラスルームを活用し、アンケートの収集や集計は簡単にできる。

・SSHに関連し、他者と協働して学ぶとは。

⇒他者との協働は、異なる価値観を持つ他者との対話的な学びや探究の時間において外部の方との協働、教科横断的な指導などを通じて様々な形で実現できる。

・どのように評価・判断するのか。

⇒内面的な成長について外部からは見えにくい面もある。本校独自のアンケートを活用したいと考えている。

- （生徒 G）生徒主体の活動の活性化、HP 等広報活動の充実等の説明
 - ・今後、生徒会と後援三徳会との連携がうまくできていくとよいと思う。⇒できる範囲でお願いしたい。

 - （安全 G）生徒情報シートの活用、情報共有等の説明
 - ・情報共有のシステムの使い方や運用について専門的な人材はいるのか。システムにもいろいろなソフトがあり使えるようにしたほうがいい。⇒生徒の情報共有は職員間で行っている。
 - ・HP 等のコンテンツにどこまでの情報を掲載するかなど情報管理の問題もある。⇒クラスルームを活用し、個々の生徒と担任とがとやり取りができるようになっている。電話が通じない生徒への連絡などにも有効に使われている。

 - （進路 G）進学支援、キャリア教育の実践等の説明
 - ・1 学年の自己理解とはどのような活動があるのか。⇒自己実現のための自己理解をテーマに自分を知ることから自己の可能性に目を向けさせ、自己の将来像を描けるように指導している。

 - （広報 G）地域・後援組織との連携、広報活動等の説明
 - ・牧陵会としても卒業生の講師派遣等できる範囲で学校、生徒会を支援していきたい。⇒できる範囲でお願いしたい。

 - （事業 G）SSH 事業の説明
 - ・コロナ禍でもあり、スタディーツアー等が中止になった場合の対応は。オンラインの活用など考えられる。⇒前回の福島などはオンラインを利用した。今年の釧路でもオンラインは利用可能。ただし、今年度は現地で開催できるのではないかと考えている。
- (6) その他（事務連絡等）
- 第 2 回緑高運営協議会予定
 - 2 つの部会を別日に行うか、同日の別時間帯に行うかは未定。
 - 「学校評価部会」 中間報告
 - 「特色部会」 10 月～12 月に SSH 事業の取組状況について
 - 100 周年事業について
 - ・6 月 4 日（土）に牧陵会総会があり、そろそろ動き出したい。学校の様子や雰囲気はどうか。⇒ロゴマークを決定し事業の予算化も行っている。今後 100 周年実行委員会を開催する予定。
 - ・記念誌や体育館の改修などの事業も応援していきたい。

令和4年度 第2回緑高運営協議会（学校評価部会） 議事録

- 1 日 時 令和4年12月5日（月） 14:00～
 14:00～14:30 授業見学
 14:40～15:30 学校評価部会
 15:40～16:30 特色部会

- 2 会 場 本校 会議室（学校評価部会）

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	欠席
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会総務担当	欠席
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	欠席
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	
若林 由美	後援三徳会（本校保護者後援会）前理事長	欠席

4 内 容

- (1) 授業見学

- (2) 校長あいさつ

- (3) 今年度の活動状況（協議）

- （事業G・学事G）授業力向上、公開研究授業等の説明

・観察力を引き出すとはどのように指導するのか。常識にとらわれない見方をする人がいると面白い。

⇒教科ごとにやり方は異なり、また授業以外の活動でも引き上げていきたい。

- （学事G）授業評価の実施の説明

- （安全G）生徒情報シートの活用、支援ケースのカテゴリー化、家庭との連携の課題点等の説明

- （進路G）進学支援、キャリア教育の実践等の説明

・中学校からキャリアパスポートは渡ってきているか。

⇒担任が確認し、1年生は取り組んでいる。ただし、すべての中学校から回収できていない。また、すでに生徒に返却しているので紛失もあるという報告は受けている。

・書式が決まっていなかったが、高校では決まっているのか。

⇒行事ごととホームルームで記入する形をとっている。

○（広報 G）地域・後援組織との連携、広報活動等の説明

○（事業 G）SSH 事業の説明

○全体に対する質問・意見

・生徒による授業評価について、「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が 9 割程度だが、以前と比べて高いと言えるか。

⇒かなり高い。授業力向上についても評価されていると考えられる。

・7月の授業評価の各項目は学校で決めているのか。また記名させているのか。

⇒基本的には県教委から示されるが、学校で設定している項目もある。また、クラス・出席番号を入力してもらっていて責任ある回答も期待できる。

・大学では無記名で回答してもらっている。

⇒番号を入力してもらうことで個別のケースに対応することもできる。

・地域活性化について。地区のコンサートへの吹奏楽部の参加は評判も良く、さらに継続してもらいたい。またコンサート以外にも高齢者を元気づける事業などに協力してもらいたい。

・地域との連携の「地域」はどの地区を指しているのか。

⇒SSH の関連で昨年度は中区役所と連携してきた。SSH になるということから、中区という地域で計画してきた。また、近隣のイベントへの部活動の参加や山手警察の防犯・交通安全ポスターなどにも関わった。

(6) その他（事務連絡等）

○第3回緑高運営協議会予定 3月上旬

以上

令和4年度 第2回緑高運営協議会（特色部会） 議事録

- 1 日時 令和4年12月5日（月） 14:00～
14:00～14:30 授業見学
14:40～15:30 学校評価部会
15:40～16:30 特色部会

- 2 会場 本校 西1小会議室（特色部会）

3 出席委員

氏名	役職等	備考
秋山 晶子	本校校長	
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	欠席
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	

4 内容

（協議） 本校のキャリア教育にSSH事業をどう生かしていくか

○（進路G）キャリア教育実践プログラム等の説明

○（事業G）SSH事業の説明

・SSH事業のミッションは何なのか。また、具体はないのか。

⇒未来の地球を担う世界の科学人をつくること。具体は各校に任されている。

・基礎研究が大切と言われるが、「基礎」とは何か。ファシリテーション能力など、対話の質を向上させる働きかけを図ってはどうか。

・「キャリア教育」は意味が広すぎる生徒一人ひとりが目指すものは何か。どのように具体的に教育活動に落とし込むか。SSHに特化するなどするとイメージしやすい。

・社会や常識にとらわれない、本質を見極め、常識を超える考えを伸ばし、否定しないことで面白い人材を作れるのでは。3年間を通してチャレンジできること、失敗をしてもよい場を用意できないか。

・「成果を出せるチーム」を作るには、心理的安全性、「問い」のデザイン力、答えのない問いへのプロセスなど、先行研究の知見を踏まえて組み立ててみてはどうか。

・中学校での取り組みは。

⇒ロイロノートの活用、思考のビジュアル化、教員間の対話の促進など。魚を与えるのではなく釣り竿を与え、その使い方を教える。

企業にどう入ってもらうかが課題。科学者を顧問にすることなどはできるか。

⇒予算がかかる。教員で担当できるようになればよい。

以上

令和4年度 第3回緑高運営協議会（学校評価部会） 議事録

1 日 時 令和5年3月3日（月） 14:00～

2 会 場 本校 メディア教室

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会総務担当	
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	欠席
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	欠席
若林 由美	後援三徳会（本校保護者後援会）前理事長	

4 内 容

(1) 校長あいさつ

(2) 今年度の成果と課題（協議）

○（事業G）SSH 関連、授業力向上、「科学的思考力」の育成等の説明

- ・「科学的思考力」をわかりやすく3つの力に細分化しているのはよいと思う。
「対話」と「対話的」とでは意味が異なる。全教科で無理のない範囲で広げていってもらいたい。教科横断的に視野が広がるような取組と深く掘り下げる取組を、バランスをとって行っていければと思う。
- ・中学校でもそうだが、教員同士で授業を見るのは授業力向上につながると思う。
探究的学習ではTOCなど社会への切り口を導き出すのもよいと思う。

○（学事G・事業G）生徒による授業評価、教育環境整備等の説明

- ・今年の特徴検査はよい問題だった。中学校としても刺激になる。
- ・データで示しているように、90%以上の数値は目標を達成しているとみてよいのではないか。
- ・学校設定科目は必修か選択か。

⇒設定科目は数学Ⅱが必要な生徒向けに選択科目としている。

○（生徒G）生徒支援、アンケート実施、HP更新等の説明

- ・2つの項目で90%以上の数値が出ていることから、取組は達成できていると認めてよいのではないか。部活動は授業などでできないことができ、社会に出てからの協働性などにもつながる。起業家精神にもつながると思う。
- ・92.1%の数値はすごいと思う。緑ヶ丘高校は伝統的に生徒の自主性を大切にしていると思う。これからも大事にしてほしい。
- ・80%という数字はどういう意味合いなのか。

⇒目標達成度の一つの目安として設定した。

- (安全 G) 生徒情報シートの活用、支援ケースのカテゴリー化、課題点等の説明
 - ・様々な要因で悩んでいる生徒がいると思う。そんな生徒のサインをどのように捉えるのか。
 - ⇒学校生活アンケートの回答をとおして把握している。
 - ・アンケートは独自のものか。
 - ⇒フォーマットはあるが独自のものを使用している。
 - ・メンタル的な悩みなどは増えているか。
 - ⇒発見率は増えている。
 - ・悩みなどを内に秘めている子が発信できるようにサポートしてほしい。
 - ・いいケース会議が定着すると職員が前向きになれる。
 - ・取組は評価できる。
 - 子どもが悩みをため込みすぎて愚痴や自分の感情を吐き出せる人がいない。社会全体で取り組むことが必要で、対面で支えることが大切。
- (進路 G) 進学支援、キャリア教育の実践等の説明
 - ・「未来に生きる」とは将来設計につながると思うが、具体的にはどのようなことか。
 - ⇒振り返りをし、成功や失敗をとおして将来を幅広く考えていくための取組をしている。
 - ・キャリアパスポート・ワークシートなど自分のことを書いていくのは大学生でも難しい。もっと夢があるといい。
 - ・プログラムはよくできている。小・中・高・大のつながりの中で、悩みや失敗をどのように乗り越えたかも大切。これらをどう生かしていくかも課題。
 - ⇒中学校から高校への引継ぎは課題の一つ。出来たこと出来なかったこと、自分で取り組んだこともキャリアだと考える。
- (広報 G) 地域・後援組織との連携、広報活動等の説明
 - ・HP更新を高頻度で行っている。どのように担当しているのか。
 - ⇒個々のページの作成は各グループで行い、アップロードは広報グループで行っている。
 - ・取組内容は評価できる。
 - ・更新が頻繁なのは記録という面でもよい。後から振り返ることができる。
 - ・緑の探究のページにアップロードする時は教員が担当しているのか。
 - ⇒担当で月毎更新している。
- (事業 G) SSH 事業、教員研修等の説明
 - ・他校との情報交換は最近活発になっているのか。
 - ⇒SSHに指定され、今年になって一気に増えた。本校を視察したいところも増えた。
 - ・このような活動は大変だと思うがこれからも続けていってほしい。
 - ・安定した学校運営や働き方のため、職員の様子はどうか。
 - ⇒一つ終わればまた一つ出てきて余裕はあまりない。2年後グループ編成の見直しを検討中。業務のスリム化は必要。
 - ・「実践が先立った」という記述はあえて書かなくてもよいのではないか。
 - ⇒SSH採択から1週間程度で今年度が始まり、模索しながらの実施となった。

以上